

安全な静脈経腸栄養のためのフラッシュプロトコールの検討

藤田医科大学七栗記念病院薬剤課¹、外科・緩和医療学講座²、看護部³、臨床検査課⁴、食養課⁵、リハビリテーション分⁶

二村昭彦¹、東口高志²、臼井正信²、伊藤彰博²、都築則正²、中村純子³、嶋田信子³、井谷功典⁴、宇薄千佳⁵、國分実伸⁶

【目的】フラッシングは、患者への有効成分の確実な投与、配合変化による反応生成物の流入防止、カテーテル閉塞の予防に有用である。しかし、ときに終末期、高齢者、心不全の患者では、フラッシングの容量が過小評価される可能性が考えられる。そこで、今回、最適なフラッシングの容量を検討したので報告する。

【方法】フラッシングの容量は、静脈ルートで 20mL の生理食塩水、経腸ルートで 50mL の白湯と院内手順に規定している。2018 年 9 月より、CV カテーテルの製造元の指定、ガイドライン等を参考に、静脈ルートは 10mL の生理食塩水、経腸ルート 20mL の白湯に変更した。変更前後におけるカテーテル閉塞の発生状況を調査した。

【結果】NST によりフラッシュプロトコールを作成し、医局への説明、院内掲示など通じて、スタッフへの周知をはかった。カテーテル閉塞件数は、変更前の静脈ルート 0 件、経腸ルート 2 件、変更後の静脈ルート 0 件、経腸ルート 1 件を認めた。

【考察】フラッシュプロトコールの作成は、栄養管理上のセーフティーマネジメントの観点から臨床的意義がある。